

ここで紹介するニュースは、ほとんどの場合、日頃からOS・アプリケーション・アンチウイルスのデータベース等を常に最新の状態に保つこと、併せて、UTM導入等によるネットワーク全体の防御を行うことで対策できます。

●Chromeブラウザ、2月に続き週3回のセキュリティアップデート…最新バージョンか確認を

<https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2093531.html>
https://chromereleases.googleblog.com/2026/03/stable-channel-update-for-desktop_13.html



このニュースをザックリ言うと…

- 3月11日(日本時間)から14日にかけて、Google社より、**Chromeブラウザ**のセキュリティアップデートが**3度**リリースされています。
- まず3月11日に**メジャーアップデート**となる**146.0.7680.71/72**(Windows版、以下同様)がリリースされ、**29件の脆弱点が修正**されています。
- 2日後の13日、V8 JavaScriptエンジンの脆弱点(CVE-2026-3910)を修正する**146.0.7680.75/76**がリリース、さらに同14日には、Skiaグラフィックエンジンの脆弱点(CVE-2026-3909)を修正する**146.0.7680.80**がリリースされています。
- GoogleではCVE-2026-3910およびCVE-2026-3909について**既に攻撃コードの公開を確認**しており、**至急最新バージョンへのアップデート**を呼び掛けています。

AUS便りからの所感等

- 修正された脆弱点の多くは**細工されたHTMLページを開く**ことにより、**悪用可能**とされています(この他、**PDFファイル**から攻撃される脆弱点等も存在します)。
- Chromeについては**2月**においても、11日(145.0.7632.45/46)、13日(145.0.7632.68)、14日(145.0.7632.75/76)と**週に3回セキュリティアップデート**をリリースした経緯があります。
- 長期間更新していない場合に右上に表示される「**更新して再起動**」のボタンをクリックした場合でも、**その時点での最新バージョンではない可能性**があるため、必ず「ヘルプ」→「**Google Chromeについて**」(あるいは <chrome://settings/help>)にアクセスし、**適用すべきアップデートが残っていない最新バージョンであることを確認**してください。



「Google Chrome」にまたゼロデイ脆弱性、連日のセキュリティ修正

すでに悪用を確認、v146.0.7680.80が展開中

橋井 秀人 2026年3月16日 00:05



米Googleは3月13日(現地時間)、デスクトップ向け「Google Chrome」の安定(Stable)チャネルをアップデートした。現在、Windows/Mac/Linux環境にv146.0.7680.80が展開中だ。

私の社からダウンロード

本リリースは、以下のゼロデイ脆弱性に対処した緊急のセキュリティアップデート。すでに悪用が確認されており、一刻も早いアップデートが望ましい。

- **CVE-2026-3909**: Out of bounds write in Skia (High)

深刻度の評価は、4段階中上から2番目の「High」。

● 3月の「パッチチューズデー」、MS・Adobe他セキュリティアップデート

- <https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2092259.html>
- <https://www.microsoft.com/en-us/msrc/blog/2026/03/202603-security-update>
- <https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2092451.html>
- <https://forest.watch.impress.co.jp/docs/news/2093055.html>



このニュースをザックリ言うと…

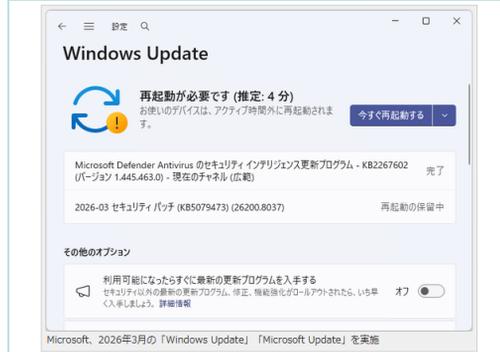
- 3月11日(日本時間)、**マイクロソフト**(以下・MS)より、**Windows・Office**等**同社製品**に対する**月例のセキュリティアップデート**がリリースされています。
- Windowsの最新バージョンは**Windows 11 24H2・25H2 KB5079473**(ビルド 26100.8037・26200.8037)および**11 23H2 KB5078883**(ビルド 22631.6783)等となります。
- この日はMSを中心とした各社の**アップデート集中日**、いわゆる「**パッチチューズデー**(米国時間での第2火曜日にあたる)」で、同日には**Adobe社**より**Illustrator・Acrobat Reader**等**8製品**についてセキュリティアップデートが、またZoom社からは**Zoomクライアント**にリモートから攻撃可能なもの等**4件**が発表されています(2025年9月リリースの**6.5.10**で対策済み、最新バージョンは3月10日リリースの**6.7.8**)。

AUS便りからの所感

- MS製品で修正された脆弱点のうち **NET** および **SQL Server** に関する計2件が**攻撃手法公開済み**、**Windows・Office・Excel**等計8件について、**危険度が4段階中最高の「Critical」**と評価されています。
- 月例のセキュリティアップデートのみならず、**各種ソフトウェアバグ**が**定期的(隔月・四半期毎等)に行うアップデート**について、特にシステム管理者においては**リリース予告がされている時期を忘れず意識**し、OS・機器のファームウェアから各種アプリケーションに至るまで**計画的に更新**、加えて**アンチウイルス・UTM**等による**多重防壁策**により、常に脆弱性への攻撃に備えるよう心掛けてください。



Microsoft、2026年3月の「Windows Update」を実施～84件の脆弱性に対処
 「.NET」「SQL Server」にゼロデイ脆弱性、「Office」「Excel」にも致命的な問題
 梶井 秀人 2026年3月11日 08:32



Microsoft、2026年3月の「Windows Update」「Microsoft Update」を実施
 ※Microsoftは3月11日(現地時間)、すべてのサポート中バージョンのWindowsに対し月例のセキュリティ更新プログラムをリリースした(パッチチューズデー)。現在、「Windows Update」や「Windows Update カタログ」などから入手可能。Windows以外の製品も含め、今月のパッチではCVE番号ベースで84件の脆弱性が新たに対処されている。

● Claudeの偽サイトが一時検索結果の上位に…詐欺被害の報告も

- <https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2603/13/news086.html>



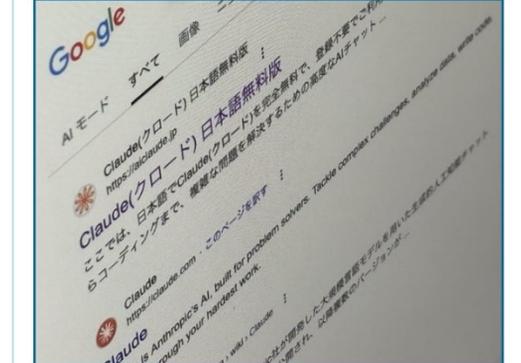
このニュースをザックリ言うと…

- 3月12日(日本時間)頃、AIチャットモデル「**Claude**」を**サーチエンジン**で検索すると**偽サイトが検索結果上位に表示**されていたとしてX(旧Twitter)上で話題となっていました。
- 偽サイトとされるのは、「**Claude(クロード) 日本語無料版**」というタイトルの、**ipドメイン名**を持つもので、ページ下部に「**非公開プロジェクトであり、公式のClaudeとは一切関係がありません**」と**但し書き**がされていますが、**Claude公式のサイトと誤認させるようなコンテンツ**となっています。
- **本物のClaude公式サイトと並んで、ないし本物よりも上位に表示されるケース**があったことが確認されており、また当該サイトによるものかは不明ですが、**X上では偽サイト上で契約してしまったとする被害の報告**も出ています。



「Claude」の“偽サイト”登場 「日本語無料版」など巧みに誘う すでに閲覧不能も検索順位の高さは脅威
 © 2026年03月13日 12時51分 公開 [ITmedia]

「Claudeの偽サイトに課金してしまった」という主旨の投稿がXで話題になっている。偽サイトの存在自体は珍しくないが、Google検索で出てくる順位が高すぎる点でも注目を集めたようだ。



この偽サイトは「Claude (クロード) 日本語無料版」という名称。Google検索では本家のAIサービス「Claude」と並んで、あるいはそれよりも上位に表示される場合もあるようだ。冒頭の投稿者はトップに出たという。

過去に話題になった偽サイトは、Googleに金を払って特定のワードで検索された際に強制的に上位に表示される「リスティング広告」を悪用したケースが多かった。しかし今回は、オーガニック(自然検索)で——つまり「Googleのおすすめ」として上位に出てきた点が問題だ。

AUS便りからの所感

- 偽サイトには「Claude ログイン」「当社について」のページや「お問い合わせ」フォームがあり、またトップページ上部に**AIチャットフォームが組み込まれています**が、Claude開発元のAnthropic社と競合する**OpenAI社のチャットを名乗る**等、不自然な箇所があります。
- 3月13日時点のITMediaの記事では当該サイトは閲覧できなくなっているようですが、3月16日時点で確認した限り、サイトは**依然閲覧可能**となっています。
- Claude公式サイトのドメイン名は「**claude.com**」および「**claudeai**」ですので、実際にClaudeに登録・ログインする際は**必ず本物のサイトであることを確認**の上、**ブラウザのブックマークに登録**を行い、**そこからアクセス**するよう心掛けてください。